HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | 目撃証言と認知心理学 : 特別講義（1） |
| Author(s) | 仲, 真紀子 |
| Citation | 心理学科をめざすあなたへ, 改訂版, ISBN: 978-4-325-16698-6, pp.48-49 |
| Issue Date | 2010-11-10 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/44636 |
| Type | bookchapter |
| File Information | Naka48-49.pdf |

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

特別講義①

# 目撃証言と認知心理学

仲真紀子先生〔北海道大学大学院文学研究科教授〕

「この人です」「この人に違いありません」――事故や犯罪の目撃者が，記憶にもとづいて供述を行う目撃証言。目撃証言の信頼性の検討も，認知心理学のテーマのひとつである。顔の目撃証言の信頼性にかかわる，ある実験を紹介しよう（仲，厳島，原，伊東による）。

## たくさんの写真を見せると混乱する？

犯人が捕まらないときなど，目撃者はあれかこれかと多数の写真を見せられることがある。しかし，多くの写真を見ることは，犯人の顔の記憶を低下させるのではないか。

実際，ある事件の目撃者は次のように述べている。

「（見た写真は）数えきれません。新聞記者や刑事の持ってきたものが何百枚という数になってると思います。私は新聞に出た似顔写真が頭にこびりついて，どうだったのかはっきりしなくなるのです」。

このような問題意識のもとに，私たちは次のような実験を行った。大学生にある（実験とは関係のない）調査に協力して

| | |
|---|---|
| 条件1 | 調査直後にX氏を選んでもらう。 |
| 条件2 | 調査後3週後にX氏を選んでもらう。 |
| 条件3 | 調査後3週後にX氏を選んでもらう。ただし，調査後の3週間の期間に，X氏を探すためと称して，300枚のダミーの写真を見てもらう。 |
| 条件4 | 調査後5ヶ月後にX氏を選んでもらう。 |
| 条件5 | 調査後5ヶ月後にX氏を選んでもらう。ただし，条件3と同様，300枚の写真を見てもらう。 |

表1：写真を選んでもらう条件

もらった後，この調査を行った白衣の人物（X氏と呼ぼう）を100枚の写真から選び出すことを求めたのである。選んでもらう時期は，調査の直後，3週間後，5ヶ月後のいずれかであった。さらに，3週間後と5ヶ月後の条件では，ダミーの写真（つまりX氏が含まれていない写真）を300枚見てもらう条件をもうけた。条件は表1のとおりである。

結果を下の図1に示す。直後であれば8割が正しい写真を選んでいる。何もしなければ3週間後でも8割（条件2），5ヶ月後では6割が正しく再認している（条件4）。しかしダミーの写真を見せた条件では，3週間後で6割（条件3），5ヶ月後では4割の正再認率である（条件5）。多くの写真を見たために，目撃者の記憶は混乱してしまったのだろう。

## 目撃証言に関して認知心理学ができること

一般に，事件を目撃したときの条件（明るさや距離など）がよく，事情聴取までの期間が短く，思い出してもらう手続きが公正であるほど，正確な証言が得られる。目撃条件は事件が起きてしまった後ではどうすることもできないが，聴取までの時間や思い出してもらう方法を改善することは，捜査側の努力により可能である。この点において，認知心理学も寄与することができる。

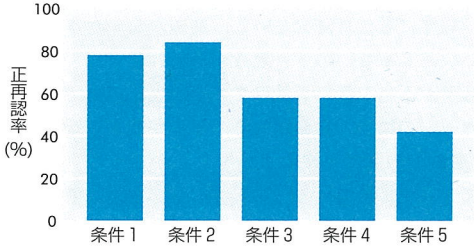


図1：それぞれの条件下で正しい写真を選んだ率